2019.6.3

○○中学校　第２学年　　社　会　科　通　信

なんでやねん

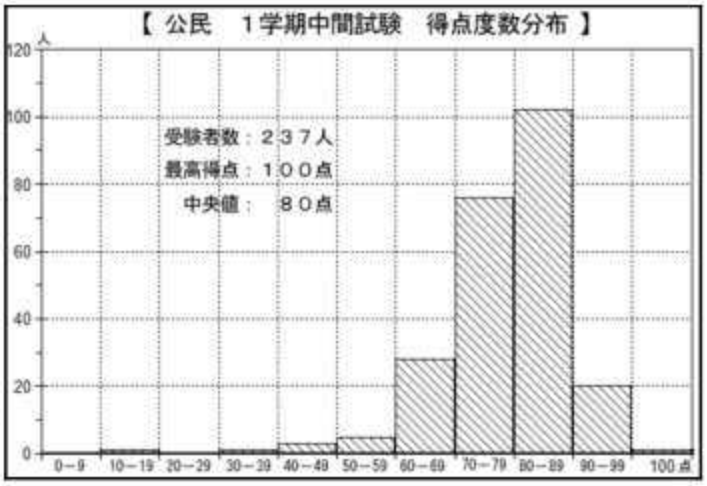
発行責任者　倉橋　忠

No.10

「公民」での初めての中間試験の結果

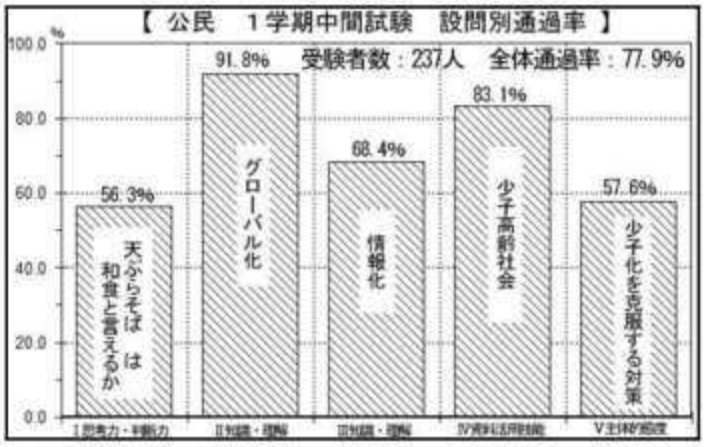
2年生になって最初の中間試験の結果はどうでしたか。

今回の試験結果を学年全体で見た場合、中央値が80点でしたからまずまずの成績だと言えます。80点台の答案が最も多く、90点以上の答案は20人を超えました。



設問別通過率(正解率)では、思考力・判断力を試した問題Ⅰの通過率が低く(56.3%)気になります。

Ⅰでは「天ぷらそばは和食と言えるか」を通して、複数の立場に立って考えることができるかどうかを試しました。「複数の立場に立って考える」ことは、社会科で最も大切な「社会的な考え方」の基本です。今後の試験でも出題します。



次に、少し詳しく説明しましょう。生徒の一人ひとりが民主主義社会の**主権者**として、「社会問題」の解決方法を**主体的に考える**ことができるようになることが、**公民を学習する目標**です。そして、公民で学ぶ社会事象は、ほとんどが「社会問題」です。

「社会問題」には、必ず**意見の対立**が起きています。事実(原因)の理解の仕方(しかた)も対立します。事実(原因)の理解の仕方が異なると解決方法も変わります。数学では計算式が異なると「解」に違いが出ます。社会科学でもそれは同じです。「社会問題」の事実(原因・計算式)のとらえ方で、解決方法が異なるのです。さらに、解決方法の違いは利害関係(りがいかんけい)に大きな影響が現れます(誰(だれ)が、いつ、利益(りえき)を得(え)て、被害(ひがい)を受(う)けるか)。

ですから、「社会問題」の解決方法を考える場合、対立する意見を客観的に、合理的に理解することがスタート地点になります。そのうえで、公正な判断をすることが大切なのです。試験では、**複数の立場の考え方**や**公正な判断**ができるかを試します。

今回の中間試験で正解率が低かった問題。ここがポイントだった

Ⅰでは、太郎君の「和食とは言えない」という意見と、はな子さんの「和食だと言える」の意見が対立しています。それぞれの立場に立った場合、論拠になるのはどのような事実があるかを考えなければなりません。次郎君は太郎君に賛成し、たけ子さんははな子さんと同じ意見です。難解なのは(2)と(5)です。(2)では「日本で作られてきたもの」が和食と言えるかどうかです。もし、これを肯定すると日本で作られている「中華料理」も「フランス料理」も和食だということになります。(5)の「ア」の内容が複雑です。だし汁の原料は大半が輸入品なのです。かつお節の原料のカツオは半分が輸入品、醤油の原料の大豆・小麦・食塩はほとんどが輸入品です。

Ⅱの正解率は高かったです。「用語解説編」で紹介した教科書の本文を、君たちがよく読んでいることがわかりました。グローバル化の知識はほぼ定着していました。ただ、「輸入」と書けないで「輪入」と書く人が多かったことは残念でした。

Ⅲの(4)で出題した電子マネーやクレジットカードは、情報化の代表選手です。コンピュータとインターネットが「技術」だと反応できた人は、学年で数人でした。設問が不適切でしたか？　情報化が情報通信技術の高度な発達によるものだと理解していれば、たどり着けた問題でした。情報リテラシーの意味を正しく説明できるようにしておいてください。情報モラルの正解率はとても高かったです。

Ⅳは、少子高齢社会を人口ピラミッドの変化から読み取る問題でした。多くの人が誤答した問題は(5)です。誤答の代表は「少子高齢化」という言葉です。(5)の問題文には「子どもの数が減り、高齢者の割合が増えている社会を何というか」とされています。漢字6文字と「社会」という2つのヒントがあっただけに残念です。(6)は難解な問題です。「エ　高速道路や橋や港湾など多くの公共施設の老朽化対策の費用が増大し、若い世代の負担が増大する」には、複数の事象が混じっていて、必ずしも若者だけが負担するものではないことがふくまれています。しかも、「高速道路」は高齢者が利用しても料金を負担しますので、高齢者も支払いますから、これが「人口問題と直接的な関係が最もうすい」と考えることができます。

Ⅴの作文の重要な内容は、少子化の問題を解消するための取り組み策のアイデアを提案することです。問題文に「少子化でおこる問題点を指摘し、あなたの考える解決方法を説明しなさい」と、必ず触れなければならない論点の指示があります。

　まず、少子化でおこる問題点を具体的に指摘しなければなりません。次に、少子化の原因を事実に基づいて説明する必要があります。少子化の原因を取り除く対策が必要だからです。解決策は自由に提言できますが、原因と解決策が対応している必要があります。詳しくは、次号の「**なんでやねん**」で解説します。